

令和元年9月26日

6年生保護者様

玉城町立下外城田小学校

平成31年度 全国学力・学習状況調査結果について

4月18日に実施した全国学力・学習状況調査につきまして、本校6年生の結果分析をまとめました。本結果を今後の教育活動の指針の一つとして、成果は継続して伸長し、課題については改善に向けた取り組みを進めてまいります。ご家庭でも参考にいただければと思います。

尚、昨年度までは、国語A、国語B、算数A、算数Bと4種類の調査がありましたが、平成31年度より、A問題とB問題が統合されて、国語と算数の2種類の調査に変更となりましたので、ご了承ください。

○全体的な結果から

国語、算数両方とも三重県平均・全国平均を上回る良好な成績でした。中でも、国語は、正答率が高く優秀な成績でした。国語の「書く能力」「話す・聞く能力」を問う問題では正答率が高かったですが、算数の「数量や図形についての技能」や「数学的な考え方」を問う問題では、よくできている問題と課題になる問題があり、力が十分についているとはいえません。また、国語の「漢字の書き取り」や算数の「小数の計算」には課題があることもわかりました。

加えて、学習・生活の状況については、「家庭での学習時間が短いこと」や「読書の時間が短いこと」「将来の夢や目標を持っている子供が少ないこと」が課題であり、「コンピュータなどを使った授業をよく行っていること」や「学級での話し合いを生かしていること」などが良好な状況であることがわかりました。

国語

<全国平均を10%以上上回っている問題>

- 1一 図表やグラフなどを用いた目的を捉える
- 1三 目的や意図に応じて、自分の考え方の理由を明確にし、まとめて書く
- 1四(1)ア 漢字を文の正しく使う(対象)
- 1四(2) 文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く
- 3一 話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問をする
- 3三 話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる

<全国平均を10%以上下回っている問題>

- 1四(1)イ 漢字を文の正しく使う(限らず)

《今後》

漢字の読み書きについては、「対象」は高い正答率でしたが、「限らず」は平均よりもかなり低い正答率となり、同音異義の漢字「関心」の正答率は平均を超えたものの低い正答率となりました。文章の意味にあった漢字の選択が苦手な様子がありますので、これからの学習の中で、適切な漢字の用い方が身につくように指導していきます。また、漢字の学習は、1学期中に6年生の配当漢字の学習は終わっていますので、2学期から反復学習を進め、確実に身につけさせていきたいと考えています。

「書くこと」については、記述式も含めて正答率が高く、これまでの学習の中で、「自分の考えをまとめて書くこと」を重視して取り組んできた成果といえますので、今後も継続して取り組み、さらに「書く力」を高めていきたいと考えています。

国語では、記述式の問題が多く、また何を答えるかの問いの記述までの前段の文が大変長く、解答が大変難しい内容です。また、文章表現をする上での条件が与えられていることもあり、それに合わせて文を書くことも解答を大変難しくしていますが、子どもたちが最後まで粘り強く取り組み、良い結果を得られたことは大変すばらしいと思います。今後も、挑戦することの大切さを伝えながら、いろいろな種類の文の読解経験を積み、学力として求められる力をさらにつけていきたいと考えます。

算数

＜全国平均を10%以上上回っている問題＞

- 2 (2) 2010年の市全体の水の使用量が1980年の市全体の水の使用量の何倍かを読み取ることができる
- 3 (3) 示された計算の仕方を解釈し、かける数や割る数を選び、計算がしやすい式にして計算できる
- 4 (2) 示された場面において、複数の数量から必要な数量を選び、立式することができる
- 4 (3) 場面の状況から、単位当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる

＜全国平均を10%以上下回っている問題＞

- 1 (3) 示された図形の面積の求め方を解釈し、その求め方の説明を記述できる
- 2 (4) 加法と乗法の混合した整数と小数の計算をすることができる

《今後》

グラフを読み取り、わかることを選んだり、使用量が何倍になっているかを求めたりというような簡単な問題と複数の数量から必要な数量を選んで考える問題は、ほぼ全員ができています。一方で、加法と乗法が混ざった計算のように、習ってから時間がたち、使う回数が少ない計算問題は、定着率が低く、今後、定期的に何度も繰り返す演習が必要だといえます。また、計算式から、どのように考えたかを記述する問題の正答率が低く、相手の考えたものを自らも考え、理解する力をつけていく必要があるといえます。今後の授業の中で、友だちの考え方を自分のものとして理解し、相手に説明できるような場面を多くしていきたいと思います。

学習状況（児童質問紙）

（１）良好なこと

- ① 先生は、自分の良いところを認めてくれる
- ② ものごとを最後までありとげて、うれしかったことがある
- ③ 学級でみんなで話し合っただけで決めたことなどに協力して取り組み、うれしかったことがある
- ④ 学校に行くのは楽しいと思う
- ⑤ 地域の行事に参加している
- ⑥ 授業で、コンピュータなどのICTを使う頻度が多い
- ⑦ 学級では、学級生活をよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決している
- ⑧ 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる
- ⑨ 国語の授業の内容はよく分かる
- ⑩ 国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ⑪ 国語の授業で、自分の考えを話したり書いたりするとき、理由を示したりして、話や文章の組み立てを工夫している。
- ⑫ 今回の国語の問題について、文章で書く問題を「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」
- ⑬ 算数の勉強は大切だと思う
- ⑭ 今回の算数の問題について、わけや求め方を書く問題を「すべての書く問題で最後まで解答を書こうと努力した」

（２）課題と考えられること

- ① 毎日、同じくらいの時刻に寝ている
- ② 家の人（兄弟姉妹は除く）と学校での出来事を話す
- ③ 自分には良いところがあると思う
- ④ 将来の夢や目標を持っている
- ⑤ 授業時間以外の読書の時間
- ⑥ 家庭での平日の学習時間（塾も含む）
- ⑦ 総合的な学習の時間に調べたことなどを発表する
- ⑧ 国語や算数の勉強が好き
- ⑨ 算数の授業の内容はよくわかる
- ⑩ 算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思う
- ⑪ 算数の授業で公式やきまりを習うとき、そのわけを理解するようにしている
- ⑫ 算数で新しい問題に出合ったとき、それを解いてみたいと思う

実践状況（学校質問用紙）

（１）良好なこと

- ① 言語活動について、国語科だけでなく、道徳、外国語活動、特別活動などを通して、学校全体として取り組んでいる
- ② 学習規律（私語をしない・話し手の方を向いて聞く・チャイムを守る）の維持を徹底する
- ③ 児童は、授業中の私語が少なく落ち着いており、礼儀正しい
- ④ 学級やグループで話し合う活動を授業に取り入れることに力を入れている
- ⑤ プロジェクターや大型テレビなどＩＣＴを活用した授業を多く取り入れている

（２）課題と考えられること

- ① ボランティア等による学習支援や放課後支援を行っていない
- ② 将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をあまり行っていない

《学習状況と実践状況を踏まえて》

児童は、チャイム着席をはじめ、多くの学習規律を守り、礼儀正しく落ち着いた雰囲気の中で学習を進めており、まじめな生活を送っていることがわかります。また、道徳をはじめ学級会でも話し合い活動を多く取り入れ、その結果うまくいった経験を積み、また話し合いの中で相手の考えの良さに気づき、解決していく力もついてきており、そのことは大変うれしく思います。加えて、教科の学習では特に国語科において、理解度も高く、理由を考えて話したり、書いたりし、そのことが将来役に立つという見通しも持って頑張っていることがうかがえます。今回のテストでも、あきらめることなく最後まで頑張ったようです。

一方で、自己肯定感はやや低く、将来の目標や夢を持ちにくい子どもがいることは、課題といえます。学習面では、算数が分かりにくい、算数が役に立つとは思えない、新たな問題にチャレンジしようとする意欲は高くはなく、算数においてはいくつか課題があるように思います。また、読書は好きだが、読書時間や家庭学習の時間が短めなことも課題です。算数の学習にしても家庭学習や読書にしても急に習慣を変えて、行動に移していくことは難しいと思いますが、日々の学習を大切にしながら、子どもたちの興味関心を高め、意欲的に学べるような工夫をしていきたいと考えています。学校でも、できたことは認め、ほめながら子どもたちの成長につながる取り組みを進めていきますので、ご家庭でも、子どもたちと話す機会を意識的にとっていただき、小さな変化を見逃さずに認めてあげてほしいと思います。あわせて、家庭学習の見届けもしていただくようお願いいたします。